

「地球の未来に貢献しよう！」～中国・内モンゴル自治区の砂漠化と私どもの生活～

油津 雄夫

- 1.開催日時 平成 19 年 7 月 11 日 8 : 45～10 : 20
- 2.場所 三里塚小学校 3F 会議室
- 3.参加人員 22 名
- 4.講師 油津 雄夫 (サポート ; 赤松 周平)
- 5.内容と感想

- ・内容 : 「地球の未来に貢献しよう！」～中国・内モンゴル自治区の砂漠化と私どもの生活～
 - (1) パワーポイントで説明・対話。 概要 (資料 1) を説明前に配布。
 - (2) 対話の参考資料として、開始前にアンケート (資料 2) を実施—全員から回答を頂いた。
- ・感想 : アンケートにも真面目にお答えいただき、話しやすかった。話の意図は十分に伝わったと思う。



講義の様子 (写真撮影・編集 赤松)

パワーポイントでの説明のほか、別添の<資料 1>や、札幌市「エコとくガイド」、全国地球温暖化防止推進センター「青い地球の物語—地球温暖化を止めるために—」(油津氏が持っている冊子)などの資料を配布し、広範囲の地球環境が変化している現状と身近な生活との関連を説明されておりました。参加されたシニアの方も、興味深く話を聞いておりました。

(以上、赤松による補足)

「地球の未来に貢献しよう！」～中国・内モンゴル自治区の砂漠化と子どもの生活～

油津 雄夫：ゆづ たけお

北海道地球温暖化防止活動推進員

技術士（森林環境、建設環境）・(株)エコニクス

◎ 中国・内モンゴル自治区では 人口増加－耕作の拡大と定住政策による過放牧、さらに、地球温暖化－異常気象＝寡雨によって砂漠が拡大し、人々の生活が一層厳しくなっている。人類が持続的生活を営むために、子どもの生活のあり方を考えてみましょう。

1 人類生存基盤・食料の現状

人類の生存基盤である、大気・水・土壌は 人口・食料消費量・工業生産量の増加、戦争、自然環境の破壊などでどんどん悪くなっています。

化学物質（ダイオキシン、チツソ・イオウ酸化物、環境ホルモン、農薬、化学肥料など）は大気・水・土壌－食料を汚染し、ぜんそく、アレルギー、ガンなどの病気が増加しています。北海道では家畜糞尿の地下水汚染による、食料の安全性、健康の悪化も懸念されています。

工業生産量・エネルギー消費量・二酸化炭素など地球温暖化ガスの増加は地球温暖化を招き、今年の台風・ハリケーンの猛威、'03年の日本冷夏－稲作不作、ヨーロッパ猛暑－死者多数、'02年の黄砂大量飛来のような異常気象が多発し、自然生態系の変化や疫病の蔓延、人類生存区域の縮小、食料生産力の低下を引き起こしています。

人類の過放牧・過耕作は塩類蓄積、表土の喪失・悪化を招き、地球温暖化－異常気象による砂漠の拡大と灌漑水の減少があいまって、食料生産力は減少する恐れがあります。

世界の穀倉であるアメリカ合衆国のコーンベルトでは、肥沃な土地が危機に瀕しています。農業経営の大型化によって表土が雨で流され、風で吹き飛ばされて畑が荒れているのを目にしました。その量はトモロコシの収穫量1につき、失われる表土は雨で1.5、風で0.5、合わせて2.0にもなるともいわれます。生産量＝利潤の増加を追及する資本の論理でしょうか。

大規模な地下水灌漑に支えられている、コロラド州、ユタ州などの小麦や大豆の畑では地下水の枯渇でコストが上昇し、作付け面積が減少しています。

耕地が水面より低いオランダでは、地球温暖化による海面の上昇と異常気象による洪水の対策に苦慮しています。

インドネシアの海岸線ではマングローブ林が伐られ、水田が潰されて、えびの養殖池が連なっているのが空から見えました。えび好きの日本人のために自然が荒れているのは悲しい!!

明るい面もあります。

インドネシアのジャワ、南セラウエシやバリでは山頂近くまで耕され、水さえあれば幅1メートルでも棚田を作って、三毛作で水稻が作られています。刈り取りの後、明るい子供たちが一粒一粒でいねいに落穂を拾っているのが印象的でした。

インドネシア・スマトラでは、「人間食事－養豚養鶏－養魚－水稻肥育－人間食事」の見事な循環型農業生活が古くから行われています。

フランス・アルプス、モンブラン山塊では、春・秋は山麓の急峻地、夏は高地で11頭を放牧して、天然の草だけで牛乳を搾り、「高名ブランドのチーズの製造・販売＋スキー・インストラクター収入＋景観保持の補助金」で高収入を得て、楽しそうに暮らしておられます。

2. 人類が持続的生活を営むために

(1) 「エコロジカル・フットプリント」という指標があります（平成19年版環境白書）。

「人間の地球に対する需要を、資源の供給と廃棄物の吸収に必要な生物学的生産性のある陸地・海洋の面積で表したもの」です。「実際に供給可能な面積」に対する世界全体の「エコロジカル・フットプリント」の比率は 将来にわたって生活を維持できる1.0を1970年代に超えており、2003年には1.25（地球が1.25個必要）に悪化して、実質破綻しています。

国別にみると、日本の生活を持続させるためには地球が2.5個、EUの生活では2.7個、

アメリカ合衆国の生活では5.4個必要です。中国の生活では0.9個です。

この指標からも 地球規模の環境危機の原因は人口の増加と豊かさの追求（主に先進国の化石燃料・食料の消費量の増加）にあり、先進国から早急に改善する必要があります。

(2) 人類が持続的生活を営むために、化石燃料・食料の消費量・輸入量がトップクラスの日本は世界各国に率先して消費量を抑え、技術革新で世界に寄与する義務があります。

- ① 家庭・企業において まず、省エネ・省資源・ゼロエミッションに努める。
- ② 建築・建設・製造技術やエンジンの改良、バイオマスなど新エネルギーの活用、コージェネ、燃料電池などの技術革新を国を挙げて推進する。

(3) 日本は食料不足時代の到来に備えて、食料自給率（現在40%）を向上させるために、豊かな自然条件を活かして、農業・畜産業を早急に再構築するとともに、森林も整備する。

- ③ 農地を食料生産地として、森林を木材・バイオマスエネルギー源・二酸化炭素吸収源として有効活用できるように徹底的に整備する。
- ④ 循環型の農業・地域生活——太陽エネルギーによる生物循環、堆肥を活用する水田・畑作と酪農の循環、都市と農村の循環＝地産地消（例：山形県長井市）を徹底する。
- ⑤ 輸入飼料を用いない、採草・放牧を基本とする酪農に転換する。フランス・アルプスモンブラン山塊を見習って。
- ⑥ 身体に必要な蛋白質は大豆など植物から摂る。動物性蛋白質としては飼料の蛋白転換効率（牛1/8、豚1/4、鳥・魚1/2）の良い鳥、魚を主に摂食する。
- ⑦ 安全な食料を安定的に供給する農業——除草剤・農薬・化学肥料の減量を推進する。
- ⑧ 農地・水辺の貯水・水浄化・土砂流出防止機能の向上——水辺林・湿地の保護・造成などを推進する。
など

3 私の実践

個人として、菜食・少食、省エネ、ゴミ排出量を抑える生活を心がけています。

＝買い物はマイバッグ、紙・アルミカンが町内会の回収、生ゴミはミミズコンポスト・・・

<参考文献>「少食の実行で世界は救われる」 甲田 光雄。三五館

専門家として環境コンサルタント。ボランティアとして、自分の専門・経験・知見を活かして、広く環境保全活動に参加しています。

「親の背を見て子は育つ」という諺どおり、元気に社会に尽くす姿を見せていくことが地域・地球への貢献であると考えて、市民の目線で、**人類の行動原則**に則り活動しています。

9ヵ月間お手伝いした小学校5年生の総合学習「地球環境を考える」の終わりに、生徒さんの「これからは電気を減らすため早寝早起きを心がけます」という言葉に感激感激！！

4 人類が持続的生活を営むために、全ての人に期待されていること

「人類の行動原則（生命の尊厳、全ての違いの尊重、大自然への感謝と共生、精神と物質の調和）に則って、『愛と調和と感謝の心』を持ち、個人として、専門家として生きてゆくこと」。

<以上>

